

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500071		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームポラーノ		
所在地	宮城県気仙沼市田中前4丁目6番地5		
自己評価作成日	平成 27 年 3 月 11 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、4月で開所3年目を迎えます。職員が利用者様一人ひとりの気持ちに常に寄り添い、家族のような存在になれるように心がけ、お互いを尊重しながらケアを行っています。アットホームな雰囲気作りを目指し、自宅で暮らしていた頃と同じような環境や生活を提供できるよう支援にあたっています。ホーム周辺には、薬局や飲食店があり、利用者様と気軽に買い物ができます。また、神山川沿いには、桜並木があり、草花の四季折々の変化が見られるので、とても良い散歩コースとなっています。法人は、職員のキャリア形成の為、外部研修の参加を積極的に促すなど、職員個々のスキルアップを目指し、それぞれの目標を成し遂げられるよう努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年3月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームポラーノは、気仙沼市の中央を通る国道45号線に沿う南業地区という市街地で、条南中学校の西側にある。開設して初回の外部評価である。ホームは入居者に寄り添う支援にあっており、入居者は遠慮なく率直に希望を伝えており、職員へのいたわりの言葉も出る等、打ち解けた明るい雰囲気生活している。ホームの近くの中学生の姿や声に接して元気づけられている。医療連携も良好で、いつでも往診可能な体制が取れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームポラーノ)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念を職員皆で唱和し、普段から意識付けを行っている。職員それぞれが理念を共有する事で、ケア意識の統一を図っている。	「優しい声掛けで接し笑顔で安心できる環境」等、法人の理念をホームの理念としている。自宅で籠っていた人がホームで人との交わりができるようになり、調理の手伝い等、生き甲斐を感じて生活している。	事業所のケアの根源となる理念を独自に作って頂きたい。その理念が実践に活かされているか年に1回以上職員でケアの振り返りをして頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から、積極的に挨拶を交わし、顔馴染みになれるよう努力している。ホーム周辺には美容室があり、定期的にボランティアで訪問美容に来て下さっている。	散歩や買い物時に地域住民と挨拶している。商工会の民商祭りや港祭りに出掛けている。ヨサコイ踊りのチームや踊りのボランティアやが訪問する。理学療法士や音楽療法の人ボランティアとして訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成研修を受講した職員がおり、認知症の人の理解や支援の方法を地域や近隣の方々に伝えられる状態にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催すべく、近所の方や、利用者様のご家族様へ積極的にお声掛けを行っている。ホームでの活動状況や利用者様への理解を深めて頂くよう今後も努力していきたい。	運営推進会議の構成員は、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員、地域住民代表(元民生委員)、入居者及び家族である。昨年度は1回実施した。	ホームを積極的に見てもらい地域交流の重要な足掛かりとして、会議を6回以上開催し、市職員または地域包括支援センター職員が4回以上の参加が必要である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、電話連絡するだけでなく、必要時には足を運び、連携を図れるよう努めている。また、介護保険関係の相談も行っている。	同法人の職員と共に、介護保険運営委員会や法人連絡協議会を通じ市職員と連携しており、ホーム運営規程の改善等の相談にのってもらっている。介護保険の認定更新等の相談もする。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠をせず、利用者様の要望があれば、外出したり、散歩に付き添ったりと、常に利用者様の立場に寄り添うよう心がけている。また、高齢者虐待や身体拘束の外部研修にも参加し、勉強会を開催している。	夜間に頻繁にトイレに起きる人に対する転倒防止の鈴やタンバリンを活用し、身体拘束にあたらないケアに努めている。抗精神薬による精神安定も過剰になると拘束にあたる等話し合い、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の外部研修に参加し、勉強会にて情報を共有している。職員一人一人が常に利用者様の立場になり、その方にとって心地良く、安心して暮らして頂けるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まもりーぶ等を利用されている利用者様は現在いないが、権利擁護についての勉強会を行い、職員皆で理解を深めるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約の際には、ご家族様の理解を得られるよう、十分な説明を行っており、不安や疑問点があれば納得されるよう、その都度、対応を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、ご家族様の要望等をいつでも取り入れられるよう配慮している。また、面会時には、利用者様の近況報告等を行い、ご家族様の意見や要望等に応えられるよう職員全員が心掛けている。	外食や外出の家族からの希望に対応している。入歯を作って欲しい要望にも応じている。自宅と同じ様にと乳製品や好きな食べ物の要望については、共同生活との兼ね合いを見ながら提供する努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体ミーティングでは、代表者も出席し、ホーム全体の状況を把握している。管理者と職員は常に身近な存在にあり、報告・連絡・相談を密に行い連携を図っている。	下膳の手伝いに気分が乗らないときがある人にその日の調子に合わすよう提案し、手伝いできたときは感謝の気持ちを伝える。車イスへの移乗も、自力でできる場所は活かすよう話し合い支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の職員への配慮や、様々な労働条件の受け入れ、個々の資格取得などを積極的に支援しており、意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個々の適性に合わせ、外部研修への積極的な参加を促している。職員各人がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用も全額補助している。また、研修報告会も行い、職員全員で知識や技術を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、宮城県GH協議会の研修に参加できる機会を設け、また同業者との交流を深め、互いの情報交換や情報共有の場とし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見や要望に耳を傾け、思いを受け入れるように努めている。本人の会話や行動を常に注意深く観察し、安心して暮らして頂く空間を提供できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会・受診報告の際には、ご家族様の意見や要望等をお聞きし、不安や疑問を解消して頂けるよう、丁寧に時間をかけて説明し、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のその時々の状態を見極め、ご家族様の意向を確認しながら、必要に応じたサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に利用者様と寄り添う姿勢を大切にされた支援を行っている。利用者様と生活を共にし、互いの信頼関係を築いていけるよう努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会の際には、利用者様の近況報告を行い、必要時には電話連絡を行い、常にホームとの繋がりを感じて頂けるよう努めている。また誕生会には、ご家族の予定も考慮しながら参加の声掛けを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から本人が大切にしてきた馴染みの方との交流を促し、関係性が途切れないように面会時には、再来の声掛けを行っている。また、入居前からのかかりつけ医を利用しており、築いてきた繋がりを大切にしている。	昔馴染みの友人が家族と一緒に面会に来る。姉と毎日のように電話する人がいる。入居前から行き付けだった服屋、美容室、歯医者を利用する人もいる。手紙や年賀状を書く支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、馴染みの関係が築かれ、利用者同士が支えあう関係性が自然と出来ている。その時々利用者様の状態に合わせ、座席の並びを考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した利用者様のご家族と街中で顔を合わせた際には、お互いの近況報告を行い、情報交換をしている。また、介護サービスを利用したい方を紹介して頂いたり、必要に応じて介護の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の立場になって物事を考え、一人ひとりの思いや希望を受け入れるよう努めている。また、意思表示の困難な利用者様に対しても、言動や行動を観察し、本人本位に検討している。	テレビの音量の高低の希望や「寝ていたいや～」の要望に応じている。意思表示困難な人に、立ち上がってソワソワするのはトイレと理解し、不安がる人に手を握ることで落ち着いて話ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や趣味・嗜好品等の情報を収集し、全体の情報を把握している。入居後も、馴染みの生活と変わらぬよう、利用者様やご家族の意見を取り入れながら、環境作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、日々の暮らしの中での生活記録を共有し、申し送りを行っている。月1回の全体ミーティングを通し、利用者様の情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の全体ミーティングでは、モニタリングを含め、各利用者様について話し合いを行い、介護計画に反映させている。担当制を取り入れ、様々な意見を出し合い、より良いサービスにつながるよう支援している。	ポータブルトイレ使用から、家族の要望でトイレでの排泄を計画し、できるようになった。計算好きな人の算盤を使うことや外食の機会を取り入れる等計画しており、支援が特定の人に片寄らないよう留意している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の生活記録や排泄チェック表、業務日誌に記入し、職員間で情報を共有し、ケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の予定も考慮しながら、受診に同行したり、待ち合わせ場所までの送迎を行うなど、その時々生まれるニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを積極的に受け入れるなどして、ご本人が安全で豊かな生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望や意向を受け、かかりつけ医に受診し、適切な医療を受けられるよう、医師との連携に努めている。受診した際は、受診記録に記載し、全職員が利用者様の状態把握に努めている。	本人及び家族の希望で全員かかりつけ医で受診している。かかりつけ医の病院は3カ所と歯科医である。受診時はほとんど職員が付き添う。受診記録には医師の指示、服薬方法、服薬による変化等を記録する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態変化が見られた際には、法人内の看護師に随時相談し、指示を仰いでいる。利用者様が適切な看護を受けられるよう、常に連絡体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、可能な限り見舞いに出向き、家族のような存在になれるよう努めている。ご家族や主治医、医療連携室との情報交換を密に行い、退院時の調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を十分に説明し、本人・ご家族の意向を伺っている。状況の変化ごとに、ご家族と話し合いを重ね、かかりつけ医とも相談しながら、チーム全体で支援に取り組んでいる。	ホームで終末期となり、家族の要望で自宅に戻り2日後看取られた人がいる。看取りの経験がある管理者が指導にあたり、医師からも「いつでも往診に行きます」と力づけられ、看取りのできる体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備え、救急マニュアルを作成している。勉強会を通して、全職員で緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのもと、避難訓練を行っている。避難経路の整備、スプリンクラーの定期点検、消火器の点検、災害時の非常食の準備も行っている。	避難訓練を1回実施した。「初期消火の効果、火災通報装置作動時の火災場所の確認、入居者の誘導の効果的声掛け」等の訓練の改善点や反省事項を記録し、避難方法の改善に努めている。	災害時に安全に避難できる方法を全職員が身につけるよう、夜間想定も含む訓練を年2回以上実施して頂きたい。地域住民の参加の呼び掛けもお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、常に利用者様の意見を傾聴する姿勢を大切にしている。言葉遣いも丁寧に行い、声掛け一つにしても、声の大きさやトーンにも十分気を付けて対応している。	名前を呼ばれることにより自分を意識できる重要性を理解し、声掛けしている。トイレの誘導は「あっちに行きましょう」等の声掛けをする。テレビの音量等それぞれの要望を、他の人との調和を図りながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が遠慮がちにならないよう、話しやすい雰囲気作りに積極的に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を確認した上で、小ミーティングの際に、予定を組み入れるなど、可能な限り希望に沿った支援ができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前と同様に、身だしなみやおしゃれ、季節に合った装いが出来るよう支援している。また、本人の使い慣れた化粧品などが継続して使えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートを使い、ホットケーキや焼きそば作り等、皆で参加しながら、個々の残存能力を活かした取り組みを行っている。利用者と職員と一緒に食事をする事で、家族と同じような存在になり、下膳や食器拭き等が自然に行えている。	同法人の栄養士が献立を作り、食材は入居者と買いに行く。行事食として正月、雛祭、敬老会、誕生会等があり、敬老会や誕生会には家族も参加する。入居者の要望に応じおはぎや果物等の嗜好品を用意する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立をもとに、栄養バランス、水分量が確保できるよう支援している。食事量・水分量は毎食毎にチェックしており、利用者様個々の状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔に努めている。利用者様一人ひとりの状態に合わせて介助を行っている。夕食後は義歯を預かり、殺菌・消毒している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの状態に合わせた個別誘導を行っている。	排泄は、4名は支援によりトイレでの排泄であり他の5名は自立で排泄できる。夜も適切に個別誘導しトイレでの排泄である。夜頻繁にトイレに行く人もいるが、オムツの人はいない。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、食事面からも便秘予防に努め、食物繊維の物を多く摂り入れたり、個々の嗜好も把握しながら乳製品の提供を行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を見ながら、本人の希望に沿った入浴ができるよう支援している。時間帯も本人と確認しながら、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	熱い風呂の好きな人やぬるい風呂が好きな人にお湯を入れ替える等でそれぞれに対応している。「風呂を沸かしたからもったいないから入りましょう」で入る人がいる。温泉のような色の入浴剤も活用する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルに合わせ、室内環境・温度・照明等を調整している。利用者様が安心して休息して頂けるよう、その都度意見を聞きながら支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に医師や薬剤師から注意があった服薬の注意点や副作用については、個々の受診記録に記載し、全職員が確認している。毎日の申し送りの際にも内容を伝え、周知している。また、服薬方法や種類が変更した際なども、状態の変化に気を付けながら対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力や状態に応じ、軽作業等行って頂いている。外食支援や散歩等で、気分転換が図れるよう支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様一人ひとりの希望に可能な限り沿う事ができるよう、ドライブや外食、散歩などを支援している。季節の行事では、初詣やお花見など、普段は行けないような場所へ出掛けられるよう、積極的に支援している。	買い物やホーム周辺の散歩で近所の人に挨拶し、近くの中学生の姿・声に元気をもらっている。その日の希望でホーム全員で外出を楽しんだこともある。季節の行事のほか、法人のぼらん祭りや海の駅等にも出掛ける。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っているが、希望時や、外出の際には自由に使えるようにしている。職員は定期的に出納帳を記入し、利用者様の所持金を把握するとともに、紛失防止に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという訴えが聞かれた際には、その都度対応している。実際には、毎日、姉に電話をかけている利用者様があり、お互いの近況報告を行いながら、途切れない関係性を維持している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地良く過ごせるよう、共有のスペースの適温・適湿を心がけ、毎日の清掃により、清潔な空間を提供できるよう努力している。また、ホーム内にも季節が感じられるように、四季折々の装飾を施している。	入居者と作った、桜や花の塗り絵を飾っている。畳敷きの和室があり、思い思いに過ごせる。廊下にソファがあり1人になれる場所があり本も読める。掃除を朝食後に手摺り、昼、夜にも実施し清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内や廊下にソファやテーブルを設置し、テレビ鑑賞したりと、共有空間の中でも、独りになれるよう配慮した家具類の配置を心がけている。また、気の合う利用者同士では、互いの部屋に行き来し、コーヒーを召し上がられながら、楽しい一時を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、自宅と同じような空間で過ごして頂けるよう、本人やご家族の希望を取り入れながら居室の配置を心がけている。自宅から、位牌を持ち込み、毎朝お茶と水をあげている利用者様もいる。	居室は洋間で、ベッド、洗面台、押し入れは備えつけである。馴染みのタンス、回転イス、座布団等を持ち込み、多くの家族に囲まれている写真を飾って、自宅のような空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握しながら、トイレ、浴室、居室が分かる表示を行い、場所を認識できるように配慮している。廊下・トイレに手すり、浴槽内にも手すり・滑り止めマットを設置し、安全と安心を確保し、自立した生活が送れるよう工夫している。		